

コウライキジ

2012年12月17日 pm.13:30、遅い昼食後のベランダ庭に突然キジが訪れた。極彩色に彩られ長い尾をピンと張って、インターロッキングの隙間を啄ばみながら右や左と、その動きは早い。取り急ぎデジタルカメラでの撮影となったが、我家では3重層ガラス戸に遮光フィルムが張られなお且つ冬用に女房の細工で防冷用ビニルシートで覆われている。キジの動きが早く決定的なカメラショットはかなわず残念ながらガスかったものとなってしまった(北区あいの里1条7丁目)。



調べて分かったことは、コウライキジの雄と思われる。体調はニワトリほどの大きさで、頭部は楕円形状に茶色だが顔から首にかけて鮮やかな濃紺と暗緑色が混ざり、金属光沢が角度により発色して見えた。目のまわりには赤色の皮膚が裸出し、背の羽はオレンジ黄色。首に明瞭な白輪があり、長い尾には横縞模様が鮮やか。実に色鮮やかなきれいな鳥である。

ベランダ前はロードヒーティングのインターロッキングで、近くの頭上にはひまわりの種と黒米のえさ台があり、シジュウガラやスズメ、コガラ、ヒヨドリまでが飛来していて、これらのおこぼれを啄ばんでいるかのようであった。

以前にも春先、つがいで同じ場所に飛来した事もあり、勝手知ったる餌場と認知しているのかも。今後も多く訪問してくれる事を祈念し、観察録を重ねていきたい。(投稿:西野)

※ **コウライキジ**(学名: *Phasianus colchicus*)は、キジ科の鳥類の一種で日本列島には固有種のキジが生息する。

コウライキジの名前の由来は高麗(朝鮮)のキジの意であり、日本には朝鮮半島および中国から1924年ころに名古屋市近郊の津島市に移入され、さらに大正から昭和にかけて北海道の長万部町と日高郡に主として狩猟用として放鳥され、八丈島と三宅島には1965年から1966年にかけて移入、対馬と瓜島には、すでに中世に朝鮮半島から移入されたことが知られている。固有種のキジと容易に交雑し、体全体の細かな部分で色が多種にわたるようである。